

# 喜連村の

はる

あき

なつ

ふゆ

「語り部紙芝居仕立」事業

発行：2003年3月 平野区役所

脚本：喜連地区各老人クラブのみなさん

絵：平野区喜連 大野 孝男さん

表紙・・・裏

今日は、わしの子どもの頃の話聞いてもらおうか。

4 月の中ごろ、「はるごと」というお祭りがあってなあ、5～6 軒のご近所さんと松山公園に行ったんや、桜も咲いとったで。

そのときは、お母さんたちが<sup>よもぎ</sup>蓬をつんで<sup>よもぎもち</sup>蓬餅を作ってくれたり、まきずしを作ってくれたりしたんや。

<sup>よもぎもち</sup>蓬餅もまきずしも、今みたいにいつでも食べられるわけじゃなかったんや。雨が降ったらもうその年の『はるごと』は、中止になってしまったんや。

お天気が心配やったなあ。



表紙・・・裏

『はるごと』のお祭りには、いくつかの<sup>ろてん</sup>露店が出るんや。

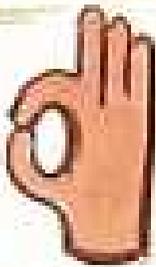
おこづかいを10銭か20銭もらって、洋食焼きやちょぼ焼きなんかを買って食べたんや。

そのころは、どんぐり<sup>あめ</sup>飴が二つで1銭やった。100銭が今の1円なんやで。

ちよぼやき

洋食やき

あめ二一銭



一 二 三 四 五

表紙・・・裏

ここら喜連のあたりは、見渡す限りの田んぼと畑やった。

お米を収穫した後、麦かジャガイモを作る『あげ田』と、水はけの悪い泥のような田んぼがあった。

泥のような田んぼはほんとに水浸しで、まるで海のように見えたんやで。

「あげ<sup>た</sup>田」に水路から水を上げるために水車を踏んだんや。

小学校の5、6年になったら毎日、水車を踏んでから学校に行ったもんやった。



表紙・・・裏

夏になって草が生える頃になったら、子どもはみんな「田がき」をするのや。

『田がき』というのは、田んぼに入って稲と稲の間の草を抜く仕事やで。

田んぼには、血を吸うヒルがいっぱいおってな。

足に目の詰まった布を巻いて、田んぼに入らんかったら、ヒルがいっぱい吸い付いてきよった。嫌やったなあ。

ヒルというのは、なめくじをぺっちゃんこにしたような真っ黒けの生き物や。

よその土地から喜連村に来はったお嫁さんはびっくりしてはった。

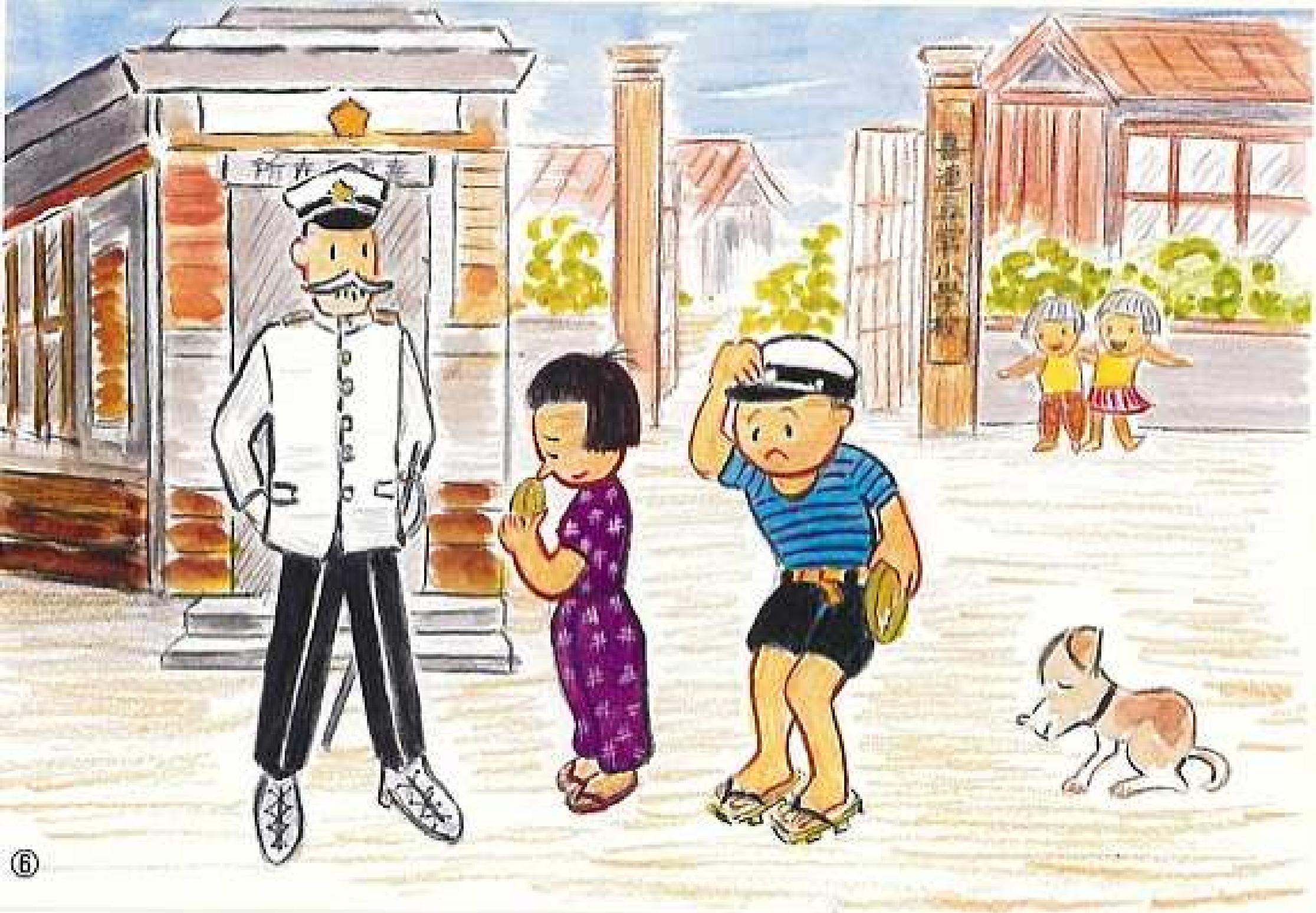


表紙・・・裏

その頃はなあ、喜連小学校には役場も駐在所も一緒にあってな、ひげをはやしたこわいおまわりさんがおったんや。

学校の帰りにマッカ瓜の畑に入って、盗み食いしようとしたら見つかってしもて、先生にもおまわりさんにも、思いっきり怒られた。

怖かったなあ。



表紙・・・裏

泣きながら帰る途中、マツカ<sup>うり</sup>瓜の畑のどこまで来たら、畑のおっちゃんが「こっこのマツカ<sup>うり</sup>瓜の方が甘いで」と言って、ひとつ取ってくれた。

おっちゃんは「喜連のマツカ<sup>うり</sup>瓜は、綿の実から油を搾<sup>しぼ</sup>った後に残るマコウという肥料や。

つるべで汲<sup>く</sup>んだ井戸水で育てているから、おいしいて有名なんやでえ。

そやけど、これは特別おいしいで」と言うて食べさせてくれた。

ほんまに甘かった。

それにしても、見ただけで味のわかるおっちゃんて、すごいと思うたなあ。



表紙・・・裏

昔は、日が暮れるまで外で遊んどったんや。

どじょう取り・べったん・べいごま・兵隊ごっこなんか、ようしたなあ。

兵隊ごっこ言うのはなあ、2組に分かれてそれぞれの組で大将・<sup>くちくかん</sup>駆逐艦・潜水艦に分かれるんや。

ぼうしのつばを前にすると大将、横にすると<sup>くちくかん</sup>駆逐艦、後ろにすると潜水艦なんやで。

大将は<sup>くちくかん</sup>駆逐艦を、<sup>くちくかん</sup>駆逐艦は潜水艦を、潜水艦は大将を捕まえることができるんや。

大将が捕まると負けになるので、みんなで自分の組の大将を守るんや。

今、遊びゆうたらテレビゲームやけど、体を動かして、みんなと走り回るのはおもしろ

かったで。<sup>くちくかん</sup>駆逐艦...軍艦の一種。敵の艦船や潜水艦を撃破(<sup>くちく</sup>駆逐)するのを任務とする小型の快速艦。



表紙・・・裏

そやけど、家の手伝いもようしたで。

水車踏みだけと違うで。マツカ瓜だいはちぐるまを大八車だいくちように乗せて、大國町きづいちばの木津市場や玉出の方まで売りに行く手伝いや。

市場へ行くには、上町台地うえまちだいちも越えて行かなあかん。

うえまちだいち上町台地を越える時、登りはゆっくり長～い坂やけど、下りは急なんや。

子どもはブレーキ役で引っ張りながら坂を下りたもんや。

引っ張っとかんと、転げ落ちて行くくらい、きつい下り坂やねん。

しんどかったけど、高く売れるとうれしかったなあ。



表紙・・・裏

稲刈りの後には、田んぼのドジョウやタニシを食べに、雁がんや白鷺しらさぎが飛んで来たんや。

朝に飛んで来た鳥たちは、夜にはちゃんと帰っていきよるんや、えらいもんやで。

特に、雁がんはいくつもいくつも隊列を組んで飛ぶんや。そらみごとなもんやったでえ。

タニシは、鳥たちが食べるだけやなかったんやで。

田んぼに行くときは、いつも腰に袋を下げて行って、タニシを見つけたら、その袋に入れたんや。

それを家に持って帰って、お母さんに茹ゆでてもらって、おやつのかわりに、食べたもんや。



表紙・・・裏

お月見の日は、各家の縁側<sup>えんがわ</sup>にお団子やおにぎりサトイモを、お月様に見えるように  
お供え<sup>そな</sup>していたんや。

子どもたちは、どの家の子もみんな竹の先を尖<sup>とが</sup>らせて、よその家においてある食べ物  
を突きに行ったもんや。

うまいこと、竹の先に刺さったら、急いで逃げたんや。

お供物<sup>そなえもの</sup>には突いて取りやすい物と、取りにくい物があるんやで。

サトイモは取りやすいけど、おにぎりは突くと壊れてしもうた。

子どもの頃は、お月見が、まさか月を見ることやなんて思わんかった。てっきり食べ物  
を突く突きみやと、思うとったわ。



表紙・・・裏

稲刈りがすんだら、年の暮れまでしめ縄作りや。

十月頃から作ることもあったなあ。

夜おそくまで裸電球はだかでんきゅうひとつで、しめ縄を作っておった。

ご近所さんが集まってな、流れ作業でやるんや。

わらを柔らかくする機械は共同で使う。

柔らかくなったわらを、みんなで編むのや。

共同で買っただいたい橙を、飾り付けていく人もおる。

複雑な形のしめ縄を作る技術を持った人もいてはった。

子どもはな、縄からはみ出たわらをはさみで切っていくんや。

これもりっぱな手伝いでな。手にはまめができたわ。



表紙・・・裏

昔は、遊びも家の手伝いも一生懸命やったなあ。

畑仕事なんかは、いつも家族が全員そろってしたし、いろんなことをご近所さんと協力しあってしたもんや。

遊ぶ時も、昔は一人で遊んどる子なんておらんだなあ。

みんな、今と生活も遊びもぜんぜん違うからびっくりしたやろ？

これが、わしの子供の頃、まだ、このへんが喜連村と呼ばれとつた頃の一年の様子や。

長い間、聞いてくれて、ありがとう。

